

算 数 通 信

テーマ：子どもの発言や考えに基づく授業

「展開する授業」と「引っ張る授業」

多くの授業に参加させていただく中で、子どもたちの発言や考えをもとに展開する授業とそうでない授業があることに気付きました。子どもの発言を使う授業を「展開する授業」とします。そうでない授業を「引っ張る授業」とします。それは、次のようになります。

算数科授業では、
く自分の考えを持つ、くその考えをみんなの前に出してみる、そしてく交流する、という流れが数学的活動の土台となります。

子どもが発言できる土台づくりを学級経営も含め取り組んでいくことが大事だと考えます。

展開する授業	引っ張る授業
- 子どもの発言を使って、授業展開を行っている。 - まとめを子どもが発言する。複数の子どもの発言を使ってまとめを行っている。 - 複数の発言を求める。 - 発言する子が広がる。 - 子どもがその時間の大事なことは発するまで、なかなか次に行こうとしない。 - 考える時間（個人の活動時間）が確保されている。	- 子どもが説明に使った言葉が、教師により変えて返されたり、板書されたりする。 - まとめでは、子どもの発した単語に、先生が文章を加えてまとめとすることが多い。 - 少数の発言（場合によっては一人の発言）で、授業が進む。 - 発言する子どもが決まっている。指名する順が、毎時間変わらないことがある。 - 次への展開を急ぐ傾向にある。 - 考える時間が、1分、3分と短い。

先生方の授業から

2年生 「くり上がりのある筆算」の実践から

前時は、十の位が繰り上がるたし算のひっ算のしかたを考えました。本時は、一の位と十の位にくり上がりがあるたし算のひっ算のしかたを考えます。

問題 76

+58

授業者は、自力解決のあと、3名の児童を指名しました。

次の授業場面の改善点を考えてください。

A

まず、 $6+8$ をします。
 $6+8=14$ です。
1くりあげます。
 $8+5=13$ です。
1くりあげて
134になります。

B

まず、 $6+8$ をします。
 $6+8$ をしたら14です。
十のくらいに1くりあげて、
十のくらいは $8+5$ になります。
 $8+5=13$ 。
13の10を百のくらいに
くりあげて、134になります。

C

まず、一のくらいをけい算します。 $6+8$ は14。
1くり上がるので、答えは4。
つぎは、十のくらいをけい算します。
1くり上げているので、 $7+5$ が、 $7+6$ で13になります。
そして、百のくらいに1くり上げて、十のくらいは3になります。
百のくらいに1くり上がったのですが、百のくらいに数字がないので、
1をそのまま書きます。
こたえは、134です。

この授業の改善点を考えてください。

- ・子どもの発言のどこに注目しますか？
- ・また、注目したらどうしますか？

説明の場面では、子どもの発言を「フムフム」と聞くのではなく、キーワードを板書したらどうでしょう。

この発表の場で、子どもたちは本時のめあてにつながる言葉をいくつか発言しています。それは、

- ・一のくらい ・1くり上げる ・十のくらい ・1くり上げる ・百のくらい
- ・くり上がった1を下ろす です。

これらの言葉を、黄色チョークで板書します。

この動きが、子どもの発言を使ったことになり、まとめにも生かせることにつながると考えます。